

令和5年度 南都留地域教育フォーラム

第二大分科会「地域との連携」

～保小中合同引き渡し訓練、コミュニティ・スクールによる連携～

**「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて
～コミュニティ・スクールをもとにした地域連携の取組～**

発表者 吉田高等学校 教頭 野澤 俊英

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
山梨県富士吉田市	687名	令和3年度	13名	3回	0名

学校教育目標

吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）→ 3年間を通して、以下の8つの力を身につけることを目標としています

- ①自己肯定力 ②傾聴力 ③分析力 ④思考力 ⑤発信力 ⑥想像力 ⑦創造力 ⑧行動力

学校・地域の特徴

創立86年を迎える富士北麓地域を代表する進学校で、地域のリーダー校として期待されている



校舎と
富士山



インスタ映えの
忠霊塔



地元産業の
織物

学校運営協議会の概要

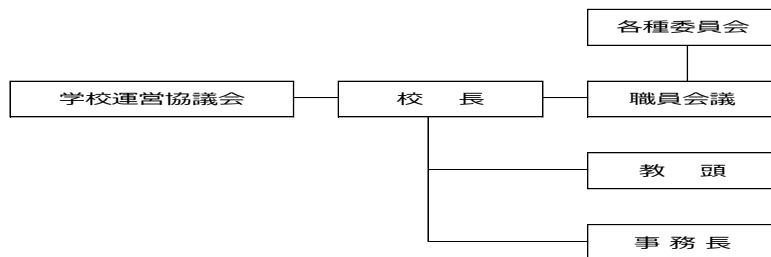
委員の構成（13名）

- ・学識経験者（2名）
- ・地域中学校関係者（2名）
- ・地域住民代表（1名）
- ・学校の運営に資する活動を行う者（1名）
- ・生徒保護者代表（2名）
- ・行政機関に係る者（1名）
- ・地域産業に係る者（3名）
- ・学校長（1名）

これまでの主な議題例

- 【令和4年度の主な議題】
- ・学校運営方針について
 - ・生徒募集について
 - ・学校評価の計画と振り返りについて
 - ・総合的な探究の時間「富士山学」について
 - ・地域と学校の協働推進事業について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 令和2年度より富士吉田市商工会議所青年部と、令和3年度より富士吉田市と連携協定を締結
- 令和3年度より、地域をつなぐNPO法人「かえる舎」と連携
- 令和4年度より、地域と連携した防災教育の取組を開始



「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められているが、本校では以下のような学校運営方針の下に取り組んでいる

【吉田高校の教育の目的】（スクール・ミッション）

Yoshida PRIDEをもって未来を生き抜くことができる生徒を育成する

※ Yoshida PRIDE とは、何ごとにも自らの考えを持って主体的に臨み、他者を尊重するしなやかな心

【吉田高校の教育の目標】

吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）

8つの力： ①自己肯定力 ②傾聴力 ③分析力 ④思考力 ⑤発信力 ⑥想像力
⑦創造力 ⑧行動力

【学校経営目標】

学校運営協議会を通して、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を得ることで、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組む

富士山学の目標

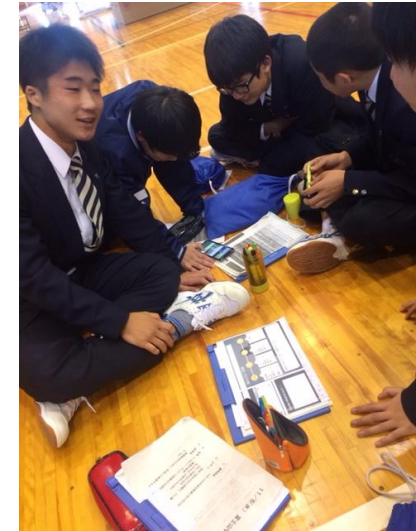
吉高GPの実現を目指し、地域における課題を解決する探究活動を展開。学校と地域が手を取り合い、生徒が各教科のものの見方・考え方を駆使しながら、自己の生きがいやあり方について考える機会を作り、生徒の優れた資質・能力の向上を目指す

富士山学のテーマ

富士北麓の自然環境・防災・街づくり・産業・芸術文化・スポーツ・国際など

富士山学（1年生）

前半：地域に関する講演会（地域の歴史や伝統、課題のインプット）等
後半：グループごとに地域に関する探究活動



フローチャートを使ったグループワーク

富士山学（2年生）

グループごとに地域に関する探究活動
地域探究活動の流れ

課題設定①⇒ 課題検証（調査・データ収集）⇒ 課題設定②
⇒ 課題探究（調査・データ収集）⇒ 課題解決に向けた活動や取組
⇒ 課題解決の検証⇒ 探究活動のまとめ



グループごとの聞き取り調査

外部との連携

- ①令和2年度より、富士吉田市商工会議所青年部と連携（再掲）
「プロジェクト223」として、令和5年度は富士吉田市商工会議所青年部から9名の方を講師に迎え、1, 2年生に地域に関する講演会を開催
- ②令和3年度より、地域をつなぐNPO法人「かえる舎」と連携
かえる舎の主な役割は学校と地域の橋渡しをするコーディネート業務と、ローカライズした教育プログラムの構築と実践

成果

- ①富士山学についてのアンケート結果
(令和5年1月～2月実施 1.2年生対象)
 - ・「富士山学の授業を自分や将来に生かした生徒」
生徒の半分以上の272名が「生かした」と回答
 - ・「地域のために活動したい生徒」
97名(授業前)⇒ 239名(授業後)に増加
- ②グループの活動
 - ・2年生：富士吉田の食文化（御師料理）を調査し、地元の小中学校で給食の献立に採用される。
 - ・1年生：子育て施設での親子向けイベントの開催



「御師料理」をテーマにした給食



「御師料理」をテーマに考案した献立の給食を試食する生徒たち

① 学校運営協議会において、富士山学の経過説明

・富士山学における地域連携関係の報告

【1 学年の取組の報告内容】

7月 大学模擬授業 8月 中間発表 11月 校外学習

2月 学年発表会

【2 学年の取組の報告内容】

6月 グループ探究の企画書を作成 9月 中間発表

12月 校外学習 2月 学年発表会



先輩から後輩へのレクチャー

② 富士吉田市、富士吉田市商工会議所青年部と連携協定を締結

・団体の代表者が学校運営協議会に参画すると同時に、各担当者等が富士山学において講演等を実施

「プロジェクト223（ふじさん）」など



富士吉田市商工会議所からの講演

③ 富士山学に対する学校運営協議会の委員からの意見（抜粋）

・地域との連携として、富士吉田市商工会議所青年部と連携協定を結び様々な活動を展開しているが、さらに発展させてほしい。

・今後、織物業や観光業との連携も考えられるのではないか。例えば、富士五湖観光連盟と連携を図り、さらに広域の団体との連携を模索することで、より広い視野を持った生徒の育成を図ることができる。

・生徒の興味・関心やニーズに応じた、富士山学のテーマ設定を行ってほしい。

～コミュニティ・スクールとして、より地域と連携するために～

⇒ 学校と地域をとりまく課題解決のための取組

※本校のある富士北麓地域は、富士山噴火による災害の危険性があり、防災意識や防災教育が求められている

⇒ 【現状】地域の防災について、学校と地域との連携体制は不十分

防災を重視した2校のコミュニティスクールを オンライン視察（令和4年度）

- ・熊本県立小国（おぐり）高等学校(R4.12.1)
 - コミュニティスクール導入の経緯
 - ⇒平成28年の熊本地震発生時に、高校と市町村との連携がなく、対応が遅れた。
 - 学校運営協議会での協議事項
 - ⇒防災教育、地域防災システム等
- ・熊本県立南稜高等学校(R4.12.22)
 - 町の危機管理課との連携が、ポイント
 - 生徒の防災意識の向上
 - ⇒共助の精神を日ごろの教育活動の中で育成。
 - 防災避難マニュアル
 - ⇒大切な箇所を抜粋、ラミネートして職員室に掲示。
 - 働き方改革
 - ⇒スキルアップはしても、新たな事業はしない。

～コミュニティ・スクールとして、より地域と連携するために～

⇒ 学校と地域をとりまく課題解決のための取組

地域と連携した防災教育の取組（令和4年度）

- ・富士吉田市職員、富士五湖消防本部職員、地元自治会の代表者、熊本県立南稜高校職員（オンライン参加）、PTAの代表者、防災委員会代表者、本校職員による協議会を開催
- ・防災について、本校の防災計画の確認と改善、避難所開設に向けた課題点や学校と地域の連携の在り方に関して協議
- ・協議後のアンケートで、「自然災害の発生に備えて、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むための契機となった」
⇒ 肯定的な回答：100%



協議会のあと、本校敷地内にある防災倉庫を点検する参加者

今後、学校運営協議会の仕組みを生かして、防災教育の取組をさらに推進

今後の方向性

「吉高GPの達成につなげるために、学校運営協議会の仕組みを生かした富士山学の更なる充実を図る」⇒ **普通科の富士山学と理数科の理数探究**のコラボ

富士山学における防災教育の取組（現在）

令和5年度は防災について2年生の5チームが取り組んでいる

（取組例）

「富士山新避難計画について」

「富士山噴火に対して事前にできることを広めるには」

「避難場所までの安全と防災バッグの普及」

⇒ ダイソー・ケイヨーデーツーとの協力の下、価格、重量、実用性に配慮し、地震だけでなく富士山噴火の災害に備えた防災バッグについて研究

⇒今後

防災グループが、富士吉田市の防災マップを作成。（予定）

スマートフォンのアプリを活用して、地元の町や市で「通れる避難路」を検索し、情報共有。（予定）



生徒が試作した防災バッグ

富士吉田市防災フォーラムに参加 (R5.9.3)

- ・富士山学の防災グループや本校の1, 2年防災委員約20名が参加し、地域の取組を学ぶ。
⇒富士吉田市長も参加したパネルディスカッションで2名の生徒が市長に質問。

私たちが備えておいた方が良いものを教えてください。

今、自分たちがすべきこと、災害時に高校生としてどのような行動が求められますか。

9/3
富士吉田市防災の日

5 防災専門家×市長 パネルディスカッション

『富士山噴火を知る』

～住民として児童・生徒としてどう備えるか～

要申込

今年の3月、富士山火山避難基本計画が改定され、避難方法などが大きく変わりました。計画改定の中で中心的な役割を担っていた専門家の先生方と堀内市長による富士山噴火を知り、住民として、未来を担っていく児童・生徒として備えにつなげていくためのパネルディスカッションです。

■時間 午後2時～3時30分 ■開場 午後1時30分

■場所 市民会館 ふじさんホール



コーディネーター

藤井 敏嗣 先生

東京大学名誉教授
山梨県富士山科学研究所 所長



パネリスト

池谷 浩 先生

(一財) 砂防・地すべり技術
センター 研究顧問



パネリスト

吉本 充宏 先生

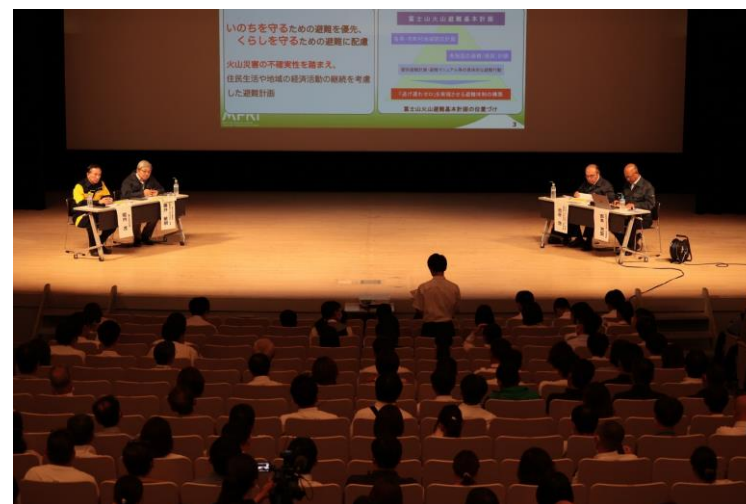
山梨県富士山科学研究所
研究管理幹



パネリスト

堀内 茂 市長

富士山火山防災協議会 会長



地域と連携した防災教育の取組 (R5.12.10)

⇒昨年度に続いて、2回目の開催。今後も継続して開催する予定。

目的：本校が地域の防災避難場所に指定されていることから、富士山噴火等の発生に備えて、学校と地域が一体となって防災教育に取り組み防災に対する意識を向上せさせると同時に、地域を大切に
する心を育む契機とする。

参加者：富士山学防災グループ(2年)及び防災委員会(1,2年)の生徒
富士吉田市安全対策課職員、地元自治会の代表者、学校運営協議会委員、本校関係職員

内容：1年生の防災員によるプレゼンテーションとその後グループディスカッションを実施
防災ワークショップも開催
テーマ⇒「防災を通じて地域を知り、地域を良くする」

・文部科学省安全教育調査官

木下史子氏 上記の取組に参加。

⇒今年度、文部科学省で作成している

防災教育の手引き：中高編に本校の防災の取組が紹介される予定。

地域と連携した防災教育の取組 (R5.12.10)

1年生の防災員によるプレゼンテーションの内容

基本コンセプト：

防災に対する意識を向上させる。学校・家庭・地域における防災の課題点を探り、高校生として何ができるかを主体的に考える契機とする。

・第1グループの探究テーマ（案）～学校の防災～

- ①富士山噴火・地震・火災等が学校で発生したとき、身を守ることができるだろうか。
安全に避難できる？ 教室以外にいた場合の避難経路は？ どこで集合する？
昼休みや放課後に災害が起こったらどう避難する？ 夏や冬の避難は大丈夫？
- ②学校の敷地内で、危険な場所はないだろうか。
校舎の内外で、危険な箇所がないかを調べてみよう。
- ③防災訓練でもっとできることはないだろうか。
- ④学校の防災力を高めるには、どうすればよいただろうか。

・第2グループの探究テーマ（案）～家庭・地域の防災～

- ①富士山噴火・地震・火災等が自宅で発生したとき、身を守ることができるだろうか。
安全に避難できる？ 安全な避難経路を知っている？ 避難場所を知っている？ 非常持ち出しの品の準備はできている？ 家族との連絡手段は確認してある？ 家族はどこで集合する？ 早朝や夜間に災害が起こったら大丈夫？ 夏や冬の避難は大丈夫？
- ②自宅や自宅の周辺で危険な場所はないだろうか。
自宅や自宅の周辺で、危険な箇所がないかを調べてみよう。
- ③地域の防災訓練に参加したことはあるだろうか。
- ④家族・地域の防災力を高めるには、どうすればよいただろうか。

①家庭科

・家庭基礎

主題：災害時における自助・共助・公助について考える。

目標：ともに支え合う社会を実現するために、個人がどのような役割を果たせばよいかを自分のこととしてとらえ、地域社会とどのようにつながっていけばよいかを考える。

内容：グループワーク

⇒災害時シミュレーション：図面やリストを用いて、グループ毎に避難者の誘導を考える。

考察

⇒避難所での助け合いの重要性について考える。

自助・共助・公助について考える。

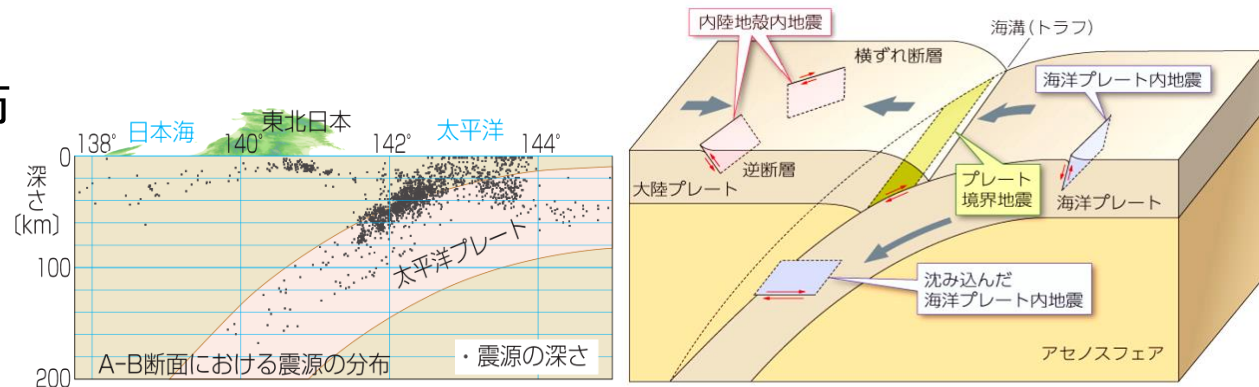
②地学

・地学基礎

地震活動①：日本付近の地震分布
地震発生の仕組み

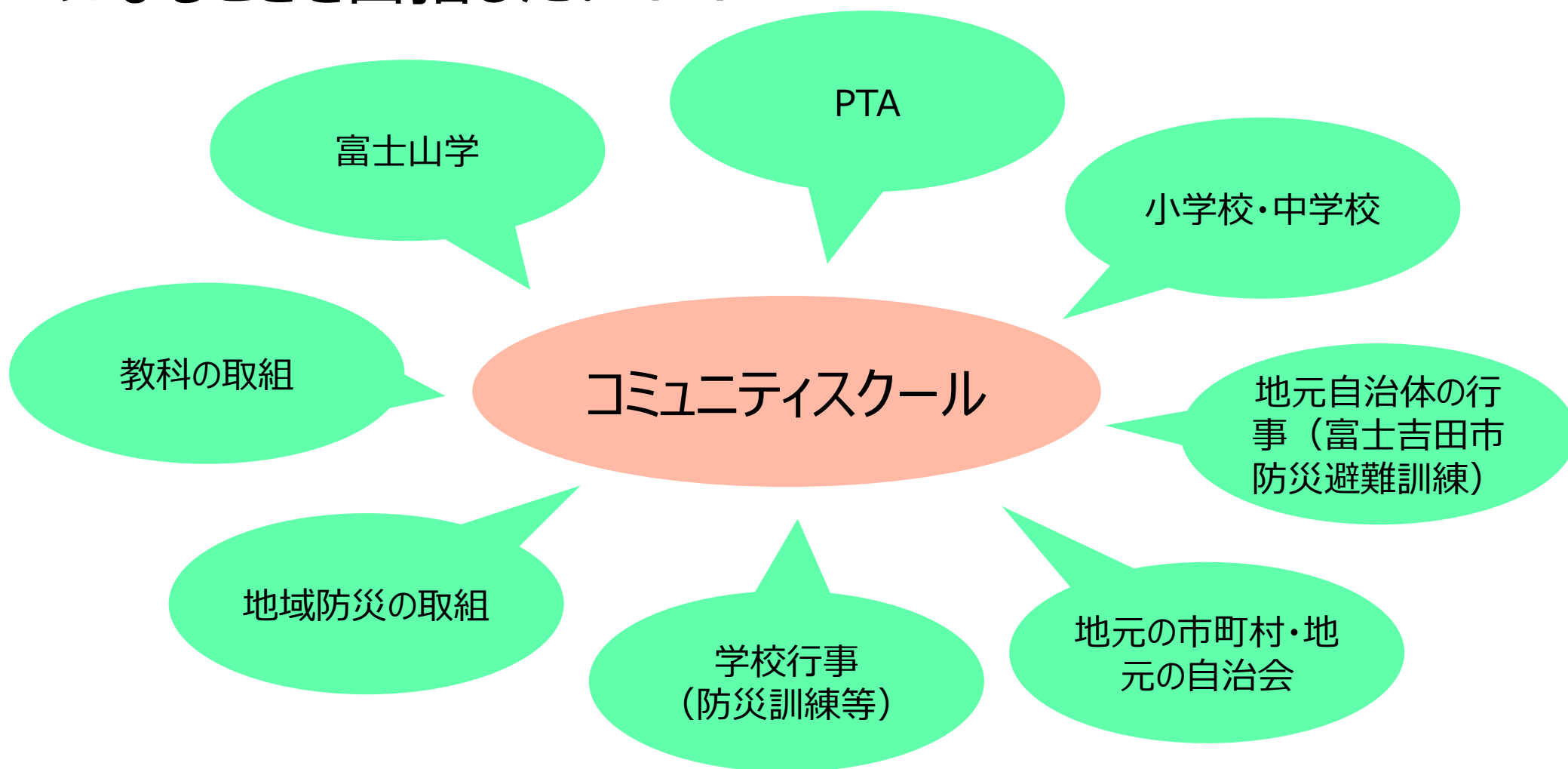
地震活動②：地震波の伝わり方
大森公式について

火山活動：火山の分布と火山噴火



コミュニティスクールを活用した地域防災の取組

⇒将来的には、高校生が「被災者」ではなく、「立派な援助者」
になることを目指したい！！



YOSHIDA HIGH SCHOOL



ご清聴ありがとうございました。